

日蓮大聖人御書全集

にちごんあまごぜんごへんじ

日敵尼御前御返事

新版
2135

にちごんあまごぜんごへんじ

日嚴尼御前御返事

こうあん ねん がつ にち さい にちごんあま

弘安 3 年 ('80) 11 月 29 日 59 歳 日嚴尼

こうあんさんねんじゅういちがつようか あまにちごん た もう りゆうがん がんしよ

弘安三年十一月八日、尼日嚴の立て申す立願の願書、

おんふせ ぜにいつかんもん 太 布 帷 ひと ほけきよう

ならびに御布施の錢一貫文、またたふかたびら一つ、法華經

ごほうぜん にちがつてん もう あ そうら お

の御宝前ならびに日月天に申し上げ候い畢わんぬ。

うえ わたくし はか もう およ そうろう かな かな

その上は、私に計り申すに及ばず候。叶い叶わぬは

ごしんじん そうろう まった にちれん 失 みず 澄

御信心により候べし。全く日蓮がとがにあらず。水すめ

つき 映 かぜ吹 き 揺 みこころ みず

ば月うつる、風ふけば木ゆるぐごとく、みな御心は水のご

しん 弱 濁 しんじん 潔

とし、信のよわきはにごるがごとし、信心のいさぎよきはす

澄

めるがごとし。き どうり 木は道理のごとし、かぜ 揺 風のゆるがすは経文をきようもん

読

よむがごとしとおぼしめせ。思 恐々謹言。きようきようきんげん

じゅういちがつにじゅうくにち

十一月二十九日

にちれん

日蓮

かおう

花押

にちごんあまごぜんごへんじ

日嚴尼御前御返事